



義太夫協会会報
第106号

平成30年1月1日
一般社団法人 義太夫協会 発行
〒103-0023
東京都中央区日本橋本町3-1-6
日本橋永谷ビル210
Tel. 03(6265)1880
Fax. 03(6265)1881
<http://www.gidayu.or.jp>

新年の御挨拶にかえて

— 昨年の嘉事・慶事 —

義太夫協会会長 原道生

あけましておめでとうございます。本年もよろしく願います。

さて、新年早々の御挨拶として、去年のことを話題にするのは、少々時機外れのような気もいたしますが、今、この年頭に際して、私の心を強く捉えていることが、昨平成二九年の一年間を通じて、本協会そのものや、あるいは正会員個々の方々に関わる嘉事・慶事が次々と続き、しかもそれらのいずれもが、長い地道な努力の成果として得られた充実ぶりを示すものばかりと思われるからに他なりません。

以下、その具体例の数々を、会報の記事を頼りに、個人の受賞についての場合と、記念すべき切れ目のよい回数を迎えた諸企画との二つに大別して列挙してゆこうと思います。まず前者の受賞関係では、二月に竹本友和

嘉さんが「とくしま文化芸術奨励賞」を受賞しておられます。友路師匠の御逝去後、間もない折のことゆえ、その感慨も一入のことに察せられた次第です。次いで三月には鶴澤津賀花さんが「松尾芸能賞新人賞」、五月の春の叙勲では竹本土佐恵さんが「旭日双光章」を受けられて、東京の中堅・ベテランにお祝い事が続きました。その後、秋には、十月に竹本葵太夫さんが「伝統文化ポラ賞優秀賞」を受賞されました。このことは、歌舞伎の竹本の重要さが改めて公認されたという点で、大きな意味を持つ出来事なのではないかと考えます。そして、十一月、既に皆様も御存じの通り、竹本駒之助師匠が「文化功労者」に選考されるといふ、御自身にとつてはもとより、協会にとつても、この上なく喜ばしい慶事が待つておりました。なお、このことにつきましては、本会報の二ページでも触れられていますので、そちらも御覧になって下さい。次に企画についてを、回数が多い順に挙げてゆくことにすれば、何よりもまず「じよぎ」

の三月公演がその百回目にあたるということが、特筆されてしかるべきでしょう。この自主的な勉強公演を長らく継続してこられた関係者たちのエネルギーに対しては、只々脱帽する他はありません。一方、協会主催の「義太夫教室」が昨年で七十期を迎えたということも、自身誇ってよろしい貴重な成果といつて差し支えないでしょう。今春予定の記念誌の刊行が待たれるところです。また、今は埋もれてしまった演目復活の試みに特色のある「竹本土佐恵の会」の第十回が十月に催されました。同じ第十回目ということでは、十一月に、蕨市立文化ホールくるる主催の「花のように香れ 女流義太夫」があります。この会が、若手の正会員の技芸の向上に果たしてきた役割の大きさも見落とすわけには行きません。

最後に、右の諸例とは逆に、四月、第一回を催した「瑠璃の会」について触れておきましょう。この会は、関西地区での女流義太夫の定期的活動の復活を旨として発足したものとありますが、今後、めでたく十回目の記念公演を重ねることになられるように期待したいと思います。



原道生 昭和十一年、東京都生まれ。東京大学大学院中退。横浜市立大学助教授、明治大学文学部教授を経て、同大学名誉教授。瑞宝中綬章受章、日本演劇学会河竹賞、角川源義賞（文学研究部門）受賞。

(2018.1.1)

竹本駒之助 文化功労者に

本協会副会長であり、重要無形文化財義太夫節浄瑠璃個人指定保持者（人間国宝）の竹本駒之助が、昨年十一月に女流義太夫で初めて文化功労者に選出されました。

以下は文化庁の選出理由の一部です。

「義太夫節浄瑠璃の伝統技法を身に着け、登場人物の心理描写や状況の語り分けなどに余人をもって代えがたい優れた技量」

「長年にわたり義太夫節浄瑠璃演奏家として卓越した水準の活動を続けるとともに、関係団体の要職も務めて、重要無形文化財義太夫節浄瑠璃の保存伝承にたゆまず精励しており、我が国文化の発展向上に貢献した功績は誠に顕著である」

駒之助師匠インタビュー

Q 文化庁からのお知らせを受けられた時はどう思われましたか。

A とてもびっくりして、嬉しいというより、これは大変なことになったと思えました。

Q 顕彰式、午餐会のあと、皇居でのお茶のお招きがあったそうですが。

A 天皇陛下は私の出身地が淡路島ということをご存知で、「南ですか、北ですか」とお尋ねでしたので、「南淡路です」とお答えしました。美智子皇后陛下は「私の方が一つ年上です。同じ時代に育って苦労しましたね」と言っていました。

Q これからの事についてお聞かせ下さい。

A 健康に気をつけながら、自分に厳しくというのを常に心がけ、また女流義太夫の発展のために身を尽くしていきたいと思えます。



©福田知弘

竹本駒之助 たけもとこまのすけ

淡路島出身。昭和二四年、大阪にて竹本春駒に入門。文楽の諸師匠方に師事。昭和二七年、二代鶴澤三生を相三味線に東京で演奏活動を始める。昭和二八年、豊竹つばめ太夫（のちの四代竹本越路太夫）に師事。昭和四五年、四代竹本越路太夫の女性唯一の門人となる。平成八年度、第二六回モービル音楽賞受賞。平成十一年、重要無形文化財「義太夫節浄瑠璃」個人指定保持者（人間国宝）認定。平成十五年、紫綬褒章受賞。平成二十年、旭日小綬章受賞。平成二十一年度、第六四回文化庁芸術祭賞優秀賞（レコード部門）受賞。平成二十四年、第六一回神奈川文化賞受賞。平成二十七年、第七十回文化庁芸術祭賞大賞（音楽部門）受賞。義太夫節保存会会長。（一社）義太夫協会理事。

女流義太夫 本牧亭を聴く会 その9 を開催して

SEIBI工房 鳥居 誠

お陰様で「本牧亭を聴く会」も今回で九回目となった。これまでは協会の倉庫に眠っていたオーブンテープを復刻したものを中心にお聞かせしてきたわけだが、今回はその後協会に寄贈された超小型のミニ・オーブンテープ音源からの初のお披露目でもあった。

これらの録音は客席で密かに録音されたもので、テープによっては音のバランスに難のあるものも多い。さらにこの特殊な録音機（昔のスパイ映画に登場するような録音機）はほとんど実働で現存するものがなく、その後カセットテープの普及によりこのような特殊な小型録音機はすでに幻の存在となってしまう。幸いなことにテープ幅は通常のオーブンテープ（6mm）と同じであったことから、あれこれ試行錯誤をしながら復元した音源なのである。悪条件の揃った記録ではあったものの、そこに記録されていたものに協会が保存されていた音源にないものも多く、いまとなっては大変貴重な資料といえる。とはいえ現在では違法録音物ということになるのだが、もちろん公開するにあたり協会はもとより演奏者のご遺族のご了承を得ていることは言うまでもない。

今回の竹本弥周・鶴澤三生の「松右衛門内の段」は現在では滅多にかからない演目で、

(2018.1.1)

太夫・三味線とも大変な熟演であることが決り手となつてこの音源を披露させていただいた。ただ、前記の關係で太夫と三味線のバランスにやや難があり、詞章の聞き取りにくい部分があることはご理解いただきたい。

伝統文化ポौरラ賞を受賞して

このたび、ポौरラ伝統文化振興財団様より「第三七回伝統文化ポौरラ賞」の「優秀賞」を頂戴した。皆様様のご指導・ご後援のお蔭と厚く感謝申し上げます次第。

義太夫協会関連では、竹本越道師・鶴澤友路師が第十六回の特賞、竹本朝重師が第二一回のポौरラ賞、鶴澤寛也師が第二五回の奨励賞、鶴澤友勇師が第三三回地域賞を受賞している。歌舞伎関連では、俳優・振付・衣裳・小道具・狂言作者・長唄・三曲・囃子：と各分野が受賞してきたが、竹本では初の受賞となり、業界のためにもうれいことと思う。受賞内容が「歌舞伎竹本の伝承」ということであった。

私がこの世界に入った約四十年前は、まだ明治大正生まれの師匠方が健在で、平均年齢六五歳の世界に十代の青年が入ってきた：ということ、たくさんお稽古くださった。中には「君が次の世代に伝えてくれると思うからこれだけ厳しく言うのだ」という師匠もあり、責任を感じた。しかし、いくら稽古しても、舞台でやってみないことには実演家として値打ちがない。「ナンボエエこと知っていてもやられナンダラ」というわけである。さ

いわい俳優さんも抜擢くださり、未熟でも我慢してやらせてくださった。私は幸運である。若手の俳優さんが昔のビデオを見て、「葵太夫さん、〇〇のおじさんの時にやっていたんですね！」と驚かれることがある。

だんだん経験を重ねてくると、今度は後進の指導という一大事がでてくる。受け継いできたことを手渡すのである。習う方の力量に応じて、外郭を作るのか、内容を充実させるのかを考え、どうしたら理解し会得してもらえるか、指導法も工夫する。袖萩ではないが「子を持つて知る親の恩」で、人を育ててみて、自分を育ててくださった師匠方のご苦勞が解る。

思うに伝統芸能というものの、自分で編み出したものではなく、先人が創作し、受け継いだ方々が工夫を加えながら伝えてきたものである。それを学習して一代の渡世をさせて頂くのだから、次代につなげなければ、伝えてきてくださった先人へ対して不孝と思う。

去る九月、中村吉右衛門丈の幡随長兵衛で「長兵衛内」を勤めた。この場はいわゆる「ト書き浄瑠璃」を御簾内で勤めるのだが、単なる説明以上の表現を要求される部分もあり、難しい。劇中、長兵衛が死を決して家を出る前に、皆に訓戒する吉右衛門丈の長ゼリフが絶妙で、毎日聴き入ってしまった。義太夫節においても長いコトバはいろいろな工夫をして重ならぬよう、聴く人を飽きさせぬよう工夫を凝らす、吉右衛門丈のゼリフは実に整理された「型」があり、それにご本人から滲

み出る「情」が重ねられた。私は竹本ながら、こういう浄瑠璃を語れるようになりたいなと思った。

これからも研究をおこたらず、自身の実演の能力を伸ばし、後進を指導して、私を上超す人を多数育てたいと思う。(竹本葵太夫)

祖先祭ルポ

昨年の祖先祭は、十月七日(土) 十五時から両国の回向院念仏堂で行われました。前日から雨も上がり五十名近い方々がご参列下さいました。今回は、法要、お参りのあとに、一昨年十二月にお亡くなりになられた鶴澤友路師匠を偲んで、水野悠子氏のお話があり、遠方から友路師匠のご遺族長男宮崎孝徳様ご



夫妻とご子息、淡路人形協会を代表して鶴澤友勇様が駆けつけて下さいました。ご葬儀の様子DVDで流れ、寺子屋の段の野辺送りの演奏の中、人形の松丸夫婦に見送られなが

(2018.1.1)

らのご出棺は、ご参列の皆様様の深い悲しみが伝わって参りました。

そのあとは懇親会があり、短い時間ではありましたが、正会員と一般参列者の皆様と交流を深める場となりました。最後に、初めてご参列くださった方々からは「応援していただき」という嬉しいお言葉や、日本素義会会長様からは楽しいお言葉を頂き、和やかな雰囲気の中お開きとなりました。

ご住職の法話にもあつたように、ご先祖様がいらしたからこそ今があり、そのつながりを大切に、これからも先人達を偲びご供養して参りたいと思います。

今年の祖先祭も多くの皆様のご参列をお待ち申し上げます。
(総務部 竹本綾二)

文化庁・学校巡回公演

「語ってみよう義太夫節！」

伝統芸能プロデューサー 小野木 豊昭
人形浄瑠璃・文楽や歌舞伎を支え、現在でも各地に残る「浄瑠璃文化」の要であり、日本の代表的な三味線音楽としての義太夫節。ゆえに義太夫節と子どもたちの「出逢いの場」として、文化庁主催『文化芸術による子どもの育成事業』学校巡回公演への参加には大きな意義がある。本年度は茨城県、千葉県、東京都、九校の小中学校で実施。事前に学校に赴いて行ったワークショップでは義太夫節の説明や「大笑い」の体験など。また約十名の選抜された児童・生徒は『菅原伝授手

習鑑』「車曳の段」より杉王丸の詞を稽古。本公演時に肩衣を付けて技芸員との共演が待っている。本公演では子どもたちの校歌斉唱を受けて、その校歌を義太夫節で披露。詞やマンガなどをスクリーンに投影するほか映像を駆使して義太夫節の楽しさ、面白さ、カッコよさを伝える。最後に、全校の児童・生徒による声を揃えての口上で「車曳」の演奏が始まる。竹本越京、京之助、寿々女、鶴澤三寿々、賀寿、弥々の六名が一丸となって、文字通り「体当たり」で伝えた義太夫節は、子どもたちから思いつ切りの大声と満面の笑顔を引き出した。



全員で口上の稽古

紀尾井ホール新企画

「邦楽 女もしてみむとて」

平成二十九年の七月二十九日に、紀尾井ホールにて、「邦楽 女もしてみむとて」① 女流義太夫 御殿をめぐる女たち」と題した公演が開催されました。次代を担う女性演奏家に光を当て、邦楽の魅力を伝えようという、紀尾井ホール企画の新シリーズで、第一回目に女流義太夫が選ばれました。

演目は、水野悠子さんの解説のあと、「妹背山婦女庭訓」姫戻りの段（竹本駒之助・鶴澤津賀寿）・金殿の段（竹本京之助・鶴澤津賀寿）、「加賀見山田錦絵」廊下の段（竹本越里・鶴澤駒清）・長局の段（竹本越孝・鶴澤津賀花）です。駒之助師匠が最初に端場を語って会を盛り上げてくださる中で、トリを務めさせていただくというのは大変な責任で、その重圧というのは今までに感じたことのないほどのものでした。

当日は大入りのお客様で、シリーズの第一回として弾みを付けられたのであれば、良かったと思えます。

(竹本越孝 談)



(写真提供：新日鉄住金文化財団)

(2018.1.1)

花のように香れ！

児玉 信

埼玉県蕨市の「くるる」という市立文化ホールで《花のように香れ 女流義太夫》公演を行うようになったのは、平成二六年六月のことだった。当時の館長から、自主事業の企画を依頼されたのがきっかけである。年度内に三回実施、公演日は優先的に決められる、会場費などは免除する：こんな条件だった。

長期に亘っても良いと、継続性を持たせてくれたのが有難かった。ホールの名称が「なかよく、きく・みる、そだてる」という標語に拠っているので、伝統芸能の継承に懸命に取り組んでいる若手たちを応援したい一こんな思いで《日本の声・日本の音く芸の鼓動・若き息吹》を立ち上げ、その一つとして女流義太夫を選んだ。私が義太夫協会の監事を仰せつかった時期と重なる。

メンバーは当初太夫四人、三味線三人。自分の会を持つていないことを前提に対象を勘案した結果である。事務処理は協会が協力して下さることになったが、既存の協会自主公演と同じような内容になったのでは、単に会を一つ増やすだけで終わるだろう。それでは協会に申し訳ないという気持ちがあつて、勉強会であることを打ち出したと考えた。

幸い竹本駒之助先生が監修を引き受けて下さったので、「妙心寺の段」を課題曲に決めていただき、太夫がローテーションを組んで鶴澤津賀寿・駒治お二人の三味線で一人ずつ

順に語っていくことにした。あとの太夫は、「道行物」など並びの曲を勉強するプログラムである。三味線の三人も交代で芯を取る。

こうして駒之助先生が語る御手本の「妙心寺の段」で船出した。以後、津賀寿・駒治さんとはもとより、竹本土佐恵・越若・越孝・越京のお歴々がレクチャーコーナー「ちよつと義太夫」でボランティア出演して花を添えて下さった。ただただ感謝である。

あれから四年が経過し、昨年十一月十日に第十回公演を迎えた。駒之助先生が次の課題曲に「熊谷桜の段」を決めて下さったので、御披露目を兼ねて御手本を語っていただくことにしたが、そうなるかと綾之助・越若・越孝さんにも出演していただいていた親子会で記念のプログラムを組みたい欲が出てしまった。思いが叶ったのは幸運というほかない。お蔭様で大勢のお客様にも喜んでいただくことが出来た。

実を言うと、この会は勉強会の色合いが濃いことも理由だと思いが、中々観客動員に繋がっていない。メンバーたちも、何とか打開したいと考えているようである。私も忸怩たる思いが無いといえば嘘になるが、一方で、今はそれで良いではないか、という思いもある。先は長いのだ。断つても断つてもお客様が来て下さる、そういう力をつけるのが結局が一番の早道だと腹を括つてもいるのである。今年二月、月刊誌『東京人』が浪曲特集を組んだ。表紙には「平成の浪曲時代がやってきた！」の文字が踊る。

女流義太夫の時代だって来ているぞ、と叫びたい。花のように香り、脚光を浴びることを期待している。

義太夫節との遭遇！ @神楽坂

伝統芸能プロデューサー 小野木 豊昭

五回目を迎える『神楽坂まち舞台・大江戸めぐり』（主催…アーツカウンシル東京/NPO法人粋なまちづくり倶楽部）。伝統と先端が融合し多くの人々が集う神楽坂。地元の協力を得て、神社仏閣、店舗やライブハウスから路上に至るまで、二日間に渡って街を伝統芸能で埋め尽くすという他に例を見ない文化フェスティバル。若い世代や外国の方々をはじめ、普段馴染みの薄い方々に向けて「日本の伝統文化との出逢いの場」の創出が目的である。注目は神楽坂のランドマークとも言える毘沙門天善国寺境内に設けた「講釈場」。「講談」という語り芸誕生の背景とされる、小屋掛けの舞台に集う大勢の人々への情報発信。再現された講釈場では、講談は言うまでもなく、薩摩琵琶、浪曲、そして義太夫節、にっぽんの語り芸の数々を口演していただいた。竹本京之助、鶴澤賀寿の熱演に接し



(2018.1.1)

た多くの方々が、義太夫節の楽しさを受けとめ、義太夫ファンが一人でも多く増えてくれることを願うのみである。

「わろてんか」に携わって

住んでみたい街の上位にアップした中野駅を出て中野通りを一本裏に入ったところの古びた桃園会館にパッと花が咲いた。リリコ役の広瀬アリスさんの登場である。モデル出身とあってスラッとした姿は流石であった。稽古の前に、まずどのような感じか演奏する姿をカメラに納めたものをあらかじめ見ていただいた上で、はじめての稽古が開始された。自分なりのメモで節まわしや音の流れ等苦心された様子もうかがえた。何回かの稽古の際関係者がひっきりなしに出入りしこの会場にして正解だった。水野先生も毎回つき添って下さりアドバイスをいただいた。義太夫の知識をもちあわせない方達なのでこちらの意志が伝わらなかつたりあちらの思惑もあって、なかなか双方合致する事は無理でした。そしていよいよ義太夫の本場へずうずうしくも立ち入らせて頂いた。大阪城を眼下に見下ろす窓からの風景は圧巻でした。そして私が驚いた事は、まず弾き語りで一通り録音、次に三味線のみの録音、その音にあわせてリリコさんが語る。広いスタジオで一人きりの作業は不安だったが、それもクリアし舞台での演奏へと進んだ。娘義太夫に扮したリリコさんはとてもきれいで可愛かった。大勢のエキストラがいつの間にかそろってしつこくリリコさ



左が広瀬アリスさん扮する娘義太夫・リリコ（正確には凧々子）、三味線が綾之助扮する輝子。みかんに刺したご祝儀は関西の風習。

んに声援をおくるといいういつものパターン。スタジオに流れる音は、以前に録音した音で自分の音をきく苦痛にさえたえれば、改めて緊張する事もあまりなく無事終了した。リリコさんとお別れするとき、「じょぎ」でいただいたかわいいう娘義太夫のイラスト入りの付箋をさしあげた。わあつかわいいといつて笑顔を返してくれた。これで疲れがいやされた。そして肩衣、袴の寸法を即直した衣装部の方もプロ中のプロでした。もう一つ、プロデューサーの方は中野坂上出身でした。みな様大変お世話になり有難うございました。

（竹本綾之助）

文化庁委託事業

「人形浄瑠璃で楽しむ江戸の香り」

昨年の七月、糸あやつり一糸一座の文化庁委託事業「平成二九年度戦略的芸術文化創造推進事業」『人形浄瑠璃で楽しむ江戸の香り』に同行し、北海道へ赴きました。

演目は、「鬼一方眼三略巻 五条橋の段」「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」「田野久」で、七月一九日には帯広に入り、三〇日に羽田に戻るといいうスケジュールでした。

公演日は次の通りです。

- 二〇日 豊頃町える夢館（帯広）
- 二一日 陸別町タウンホール（北見）
- 二四日 初山別村自然交流センター（羽幌）
- 二七日 奥尻町海洋研修センター（奥尻）
- 二九日 上ノ町総合福祉センター（函館）

昨年の七月、東京は酷暑でしたが、北海道では行く先々、時間帯で天候がまちまちで、初日から、帯広は一八度と驚かされました。各自体調管理に気を付けつつ、大移動の日々でした。

人口の少ない地域もあり、たまたま入った飲食店でお店の方やお客様にチラシをお渡しして、お越しいただくこともありました。終演後には直接感想などお聞かせ頂く機会にめぐまれ、とても貴重な体験となりました。

また、地域によつては、この事業がなければ、一生義太夫をお聴き頂く機会がないというところもあるだろう、と改めて実感いたしました。

（鶴澤弥々）

ほんに気がめくりヤス

(二十杯目)

この数年、当欄でもご紹介しております通り、作曲のお仕事を頂くことが多いのですが、たまに自分が出演せず、作るだけということがあります。

S F、絵本、漫画、ラップ、外人の方が違う文楽人形にアテレコ：お声をかけて頂く限りは知恵を絞って、ご期待の斜め上を行く(笑)努力をして参りましたが、これだけは廻ってこないだろうと油断しておりました『マハーバーラタ戦記』(昨年十月歌舞伎座)の竹本作曲の依頼を、同八月二十五日に何の前触れもなく頂戴しました。アムロや碓シンジの例えに漏れず、ミツシヨンはいつも突然にやってきます。

私的にはインドといえば、愛の戦士レインボーマンとナイルレストラン位しかイメージ出来ない人間でしたが、とりあえず、インドのシタールとかヴィーナといった弦楽器は、ドローンと呼ばれる通奏低音の上で旋律を奏でる、という位の理解はありましたので、そこから辺は取り入れていこうということで準備を始めました。

さて、届いた台本には、忠臣蔵の大序風幕開きから次の場までと、一幕目の所作事(こちらは新内多賀太夫様のご作曲による長唄との掛合)そして大詰の、世界三大叙事詩の一つであるこの『マハーバーラタ』のもっとも

有名な部分「バガヴァッドギータ」の一節を義太夫で取るよう指示されておりました。

：私自身、知ったようなことを言えた義理ではないので、間違つたらごめんなさいなのですが、およそ宗教というものは「それを始めた人」宗祖(あるいはそのお弟子さんや預言者等々)が残した言葉、あるいはその生涯の物語」を「信じて受け入れる人達」が共有する「考え方や行動の規範」と考えるならば(お釈迦様の物語ならば仏教、イエス様のそれならばキリスト教、アッラー様のお言葉ならばイスラム教：)インドのヒンドゥー教、さらに古いバラモン教の教義の土台となっているのが「マハー」偉大な「バーラタ」バラタ族の物語の中の「バガヴァッドギータ」で語られる「梵我一如」我即ち宇宙、宇宙即ち我々の思想ということになります。

もしかするともうこの時点でギブアップの方もおいでも知れませんが、実際私も、バラモン教やヒンドゥー教は遠い国のよく分からんもの、と思つてましたが、禅でいうところの「赤肉団上の一無位の真人(この赤い肉の塊の中に何の位も持たない真の私自身が存在する)」とか「見性(仏性の備わった「私」を自分の内に見極める)」みたいなことだろうというところ、そして、結果を求めず、ただ自分がなすべきことをなすものが最も尊いという教え：宗教でも、科学でも、芸術でも、たどる道筋が違うだけで、最終的に目指す所は一緒なんだなー、とか思いました(かのガンジーさんがそのようなことを仰せでした)。

ただでさえ難解な物語の中の、その哲学的な文言は、脚本の青木豪氏、演出の宮城聰氏をはじめとする演出陣の皆さんによって、以下のような詞章になっておりました。

「我は生まれることもなく、故に死の訪れもなし」「内なる自我は永遠に続く」「勝利を求めて戦をしてはならぬ」「内なる自我より見れば全てのものは等しく見え、あらゆる煩惱はただ消えてゆく」

七五調の叙事・叙景・感情表現に慣れている身としては、至って扱いにくい詞章ですが①どんなに語呂の悪い文章でも(失礼)ラップの要領で、八つの間に八つしか入らない所を、その倍入れる(倍の速さで語る)又は倍の長さで語ることで解決できる②インド音楽のラーガ(音階)の特徴的な音の進行は、JPOPやクラシックよりもずっと自然に三味線で弾ける、という発見のおかげで、何とか形にしました。

これらの事を紙面でお伝えするのは難しいので、お暇な方は左記QRコードから音声をお聴きください。(※但し、ご覧頂けるのはこの紙面をお読みになった方のみとさせていただきます、内容の転載・拡散・再共有等は遠慮ください)

(鶴澤慎治)



義太夫協会会報
補足資料
(字幕付音声の
YouTube ページ)

「義太夫三味線の鶴澤三寿々と能管の滝沢成実の和楽器ボン・ポヤージュ」配信中心



mookmook ラジオで「義太夫三味線の鶴澤三寿々と能管の滝沢成実の「和楽器ボン・ポヤージュ」を配信中心です。mookmook ラジオは「音で聞くmook本（ムック本）」をイメージしたテーマで番組を制作している podcast & インターネットラジオです

テーション。番組のラインナップは他に長唄三味線、Jバスケ、茨城弁、ゲーセン、プログラミングコード、算命干支学など多岐多様。何となく気になるものの普段触れにくいスポットを細かく深く知ることの出来る番組が揃っています。

「義太夫三味線の鶴澤三寿々と能管の滝沢成実の和楽器ボン・ポヤージュ」は「和楽器&旅」をテーマにしており、毎月第二、第四日曜日の十七時に更新されます。パーソナリティーの二人は既に衛星PCラジオで番組「純邦楽バラエティー」(二〇〇四年三月終了)を七年務めた学生時代の同級生コンビ。皆様を和楽器の世界、そして世界の旅へとお招き致します是非お聴きください。

(鶴澤三寿々)

番組ホームページ



itunesのpodcast



http://mookmookradio.com/a0011

新作義太夫「石川さゆり誕生奇譚」

紅白歌合戦で最多出場を記録された大スター、石川さゆりさんの「四五周年記念リサイタル」が昨秋、名古屋・大阪・東京にて開催され、鶴澤寛也が出演しました。洋楽器バンド、邦楽バンド、また佐渡から鼓童も参加し、セットも凝った大掛かりな素晴らしいリサイタルでした。

好奇心旺盛なさゆりさんは毎回新しいことにチャレンジなさり、今回は「義太夫をやりたい」とのことで、脚本家のG2(ジーツー)さんが台本を、私が作曲と三味線を担当。竹本駒之助師匠にも大変ていねいな稽古をして頂きました。

リサイタル二部の最初に柝が入り、駒之助門下の竹本京之助さんの口上(録音)があり、自らアイディアを出した誂えの肩衣をつけたさゆりさんにライトが当たると、客席から



よめきが聞こえてきました。さゆりさんは歌がお上手なだけでなくとにかくオーラがもの凄く、これがスターというものなんだ！と感じ入った次第です。そしてすっかりファンになりました。

(鶴澤寛也)

☆新春 テレビ放送予定☆

「にっぽんの芸能」新春を寿ぐ楽の調べ
義太夫『蘆刈 笠の段』

浄瑠璃 竹本駒之助

三味線 鶴澤津賀寿 鶴澤三寿々

小鼓 藤舎呂船

笛 藤舎名生

NHK Eテレ

放送 二〇一八年一月五日 夜一一時

再放送 二〇一八年一月八日 正午

■協会・正会員の主な動き■

平成二九年七月〜十二月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

七月十七日(月・祝) 紀尾井小ホール

八月二十日(日) お江戸日本橋亭

九月二十日(水) お江戸日本橋亭

十月二日(土) お江戸日本橋亭

十一月二十日(月) お江戸日本橋亭

十二月十六日(土) 紀尾井小ホール

「本牧亭を聴く会」

九月八日(金) 日比谷図書文化館スタジオ

プラス

正会員主催公演・研究会／依頼公演(*印)

「じよぎ」七月一・二日、九月一・二日、

(2018.1.1)

十一月一日・二日 お江戸上野広小路亭
 「ぎだゆう座」八月一日・二日、十月一日・二日、
 十二月一日・二日 お江戸上野広小路亭
 「女流義太夫涙と笑い3」

九月九日(土) 浅草公会堂第二集会室
 平成二九年度文化庁芸術祭参加公演「第十回竹本土
 佐恵の会」十月二十八日(土) 内幸町ホール
 「粹でおしゃれな女義ライブ其の五」
 十一月二十五日(土) 回向院

【普及】

義太夫協会主催教室

(会場：豊川稲荷文化会館)

◆義太夫・三味線一日体験教室

八月二十六日(土)

講師 竹本越京・鶴澤津賀榮

◆七十期実践コース前期(実技)

九月九日(土) ～十二月二三日(土)

文化庁主催「芸術文化による子供の育成事業
 一巡回公演事業一」(制作：古典空間)

◆「語ってみよう！義太夫節！」事前ワーク
 ショップと本公演・全九校終了

七月四日 松戸市立新松戸南小学校

九月二十六日 杉並区立高井戸東小学校

二七日 杉並区立泉南中学校

十月三日 秀明大学学校教師学部附属秀明

八千代中学校

四日 稲城市立第六中学校

五日 練馬区立早宮小学校

十二日 小平市立小平第七小学校

十三日 杉並区立浜田山小学校

二五日 茨城県立友部東特別支援学校

◆「港区学校支援ボランティア・出前授業」
 十一月六日 港区立白金小学校日本文化ク
 ラブ

【人材育成】

新人養成特別研修制度 在籍二年目一名・一
 年目一名、計二名の研修を継続。新規研修生
 継続募集中

【運営】

平成二九年度第二回理事会 十一月二十九日開
 催 日本橋永谷ビル会議室

【放送・放映】

◆NHK FMラジオ『邦楽百番』

十月二一日「冥途の飛脚」封印切の段

浄瑠璃：竹本駒之助 三味線：鶴澤津賀寿

◆NHK FMラジオ『邦楽のひととき』

七月十二日「播州皿屋敷」青山鉄山館の段

浄瑠璃：竹本土佐子 三味線：鶴澤津賀花

九月十三日「碁太平記白石嘶」浅草雷門の段

浄瑠璃：竹本越京 三味線：高音：鶴澤津賀花

十一月一日「嬢景清八嶋日記」花菱屋の段

浄瑠璃：竹本越若 三味線：鶴澤津賀寿

◆NHK Eテレ『にっぽんの芸能』

十一月十日「上方の舞を楽しむ」

「三ツ面椀久」地方：竹本駒之助、竹本綾之
 助、竹本綾一、鶴澤津賀寿、鶴澤寛也、豊澤
 雛文

■今後の協会・正会員の予定■

平成三十年一月以降

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

一月二十日(土) お江戸日本橋亭

二月二一日(水) 国立演芸場

三月二十日(火) お江戸日本橋亭

四月二十日(金) お江戸日本橋亭

五月二十日(日) 紀尾井小ホール

六月二十日(水) お江戸日本橋亭

正会員主催公演(義太夫協会後援)／依頼公
 演・協力公演(*印)

「じよぎ」三月一日・二日、五月一日・二日、七

月一日・二日 お江戸上野広小路亭

「ぎだゆう座」二月一日・二日、四月一日・二日、

六月一日・二日 お江戸上野広小路亭

「第四回弓弦葉の会」一月十四日(日)

紀尾井小ホール

「第二回瑠璃の会」三月三日(土)

大阪・文楽劇場小ホール

「第四八回邦楽演奏会」三月四日(日)

国立劇場小劇場*

「第十一回花のように香れ 女流義太夫」三月

十五日(木) 蕨市立文化ホールくるる*

公演等の詳しいご案内、最新情報は義太夫協会
 webサイトをご覧ください

平成30年女流義太夫演奏会 公演予定		
日時	会場	開演
1月20日(土)	お江戸日本橋亭	13時
2月21日(水)	国立演芸場	18時30分
3月20日(火)	お江戸日本橋亭	18時30分
4月20日(金)	お江戸日本橋亭	18時30分
5月20日(日)	紀尾井小ホール	13時30分
6月20日(水)	お江戸日本橋亭	18時30分
7月20日(金)	お江戸日本橋亭	18時30分
8月16日(木)	国立演芸場	18時30分
9月20日(木)	お江戸日本橋亭	18時30分
10月20日(土)	お江戸日本橋亭	13時30分
11月20日(火)	お江戸日本橋亭	18時30分
12月15日(土)	紀尾井小ホール	13時30分

*4月以降屋公演の開演時間が13時30分となります

広告募集!
 本会報に掲載する広告を募集しております。一段一万円、半段五千円です。詳しくは義太夫協会までお問い合わせください。

〈会報編集委員〉
 鶴澤寛也・竹本佳之助・鶴澤賀寿・竹本駒佳・竹本越里

「女流義太夫スペシャルライブ Vol.8」三月二四日(土)・二五日(日)・二六日(月)三月
 「第十六回はなやぐらの会」四月八日(日) 神楽坂ザ・グリ
 紀尾井小ホール

【普及】
 義太夫協会主催教室／文化庁委託事業義太夫教室(会場・豊川稲荷文化会館)
 ◆義太夫・三味線一日体験教室
 二月一二日(月・祝)会場・芸能花伝舎
 講師 竹本越若・鶴澤弥吉
 ◆七十期実践コース後期(実技)
 一月六日(土)～三月十七日(土)
 会場・豊川稲荷文化会館
 *七十期卒業発表会・OB演奏会
 三月十日(土)

【人材育成】
 新人養成特別研修制度 二名の研修を継続・新規研修生継続募集

【運営】
 平成二九年度第三回理事会 三月中旬予定

■寄付・寄贈■
 平成二九年七月～十一月左記のご寄付ご寄贈を頂戴いたしました。誠に有難うございました。
 宮崎孝徳様(故鶴澤友路ご子息) 三十万円
 日本素義会様 五万円
 石山岩男様(初代竹本綾之助ご遺族) 一万円
 坂本久悦様(故豊竹湊太夫ご子息)和服一式、カセットテープ、各種資料等一式
 林繁子様、林和秀様 CD・書籍一式

最新作好評発売中! 昭和43年4月3日の本牧亭公演の記録音源をデジタル復刻

「ひらかな盛衰記 松右衛門内の段」

竹本弥周作曲の義太夫小唄「堀川のお俊」も収録
 浄瑠璃 竹本弥周 三味線 鶴澤三生 定価 1,500円(税込)

＜義太夫協会記録音源復刻オンデマンドCDラインナップ＞全10タイトル
 壺坂観音霊験記・新版歌祭文・絵本太功記・御所桜堀河夜討/伊賀越道中双六・生写朝顔話・艶容女舞衣・義経千本桜・伊勢音頭恋寝刃・近頃河原達引
 *各1,500円 ご注文から10日前後でお届けいたします。詞章・送料は別途となります
 竹本土佐廣・鶴澤友路「心中紙屋治兵衛 河庄の段」、竹本駒之助・鶴澤津賀寿「近頃河原の達引 堀川猿廻しの段」・「堀山姥 廓嘶の段」・「源平布引滝 綿繰馬の段」も取り扱っております。
 *詳しくは義太夫協会へお問い合わせください

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、
制作修理 その他、各流三味線及び付属品
の御注文承ります。



きむら

〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
TEL/FAX 03-3466-2156
P.H.S 070-5457-5687
kimura-wanoshirabe@nifty.com

酒処
押上文庫

〒131-0045
東京都墨田区押上3-10-9
Tokyo Skytreeから徒歩8分!
TEL: 03-3617-7471
E-mail: oshiagebunco@gmail.com

床世話連中



〒162-0825 東京都新宿区神楽坂四-二-一
TEL/FAX 〇三(三二六〇)五〇一一

料理
空

謹 賀 新 年

あけましておめでとうございます

日 本 素 義 会

第108回 平成30年5月12日(土) 開催
新加入 大歓迎！ふるってご参加ください
詳細は菅野昌行まで

永谷 謹賀新年

お江戸上野広小路亭 お江戸日本橋亭

お江戸両国亭 新宿永谷ホール



永谷商事株式会社 代表取締役 永谷浩司

本社 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町1-20-1 tel. 0422-21-1711



地域と共に歩む 不動産賃貸業

株式会社 オ一夕力

代表取締役	渡辺 康成
常務取締役	高山 早苗
専務取締役	渡辺 貞穂

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町2-5-31
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684